

学 校 名	令和5年度 山形市立南小学校 山形市青田二丁目1番1号 TEL632-3660 FAX631-9019	校 長	横山 聡
		研究主任	三宅 慶知
研 究 主 題	「主体的・協働的に問題を解決する子どもの育成」(第三次) ー資質・能力を育てるカリキュラム・デザインと南小探究型学習ー		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校の子どもには、優れた問題解決者となり、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけた社会人になってほしいと願っている。</p> <p>2020年、新型コロナウイルス感染症によって、世界の国々は、医療・教育・経済など、様々な場面で問題を抱えることになった。また、社会情勢の変化も早く、大なり小なり、私たちは生きていく中で様々な問題場面に出会う。それらの問題を解決するために、問題を正確に把握し、自分ごととして、めあてをもって問題解決に挑む主体的な態度が必要であると考え。さらに、自分一人では到底解決できない問題は、専門家や仲間と解決しようとする協働的な態度も必要だろう。子どもが優れた問題解決者になるために、「主体的・協働的に問題を解決する子どもの育成」を主題に掲げ、校内研究を進めていく。昨年度の校内研究会では、下記のような成果と課題が出された(詳細はR4研究紀要参照)。</p> <p>以下は、昨年度の研究の重点「学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実」について、私たち南小教職員の成果と課題をまとめたものである。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"><p style="text-align: center;"><b>振り返りから見える成果</b></p><p><b>Aについて(なりたい自分たちの設定 資質・能力の設定)</b></p><p>○子どもたちが「なりたい自分たちの姿」を掘り起こし、話し合うことで、「自分たち自身(よさ・目指したい姿)」を捉えようとした。そして、学年担任団が子どもたちの実態を把握し、育成したい資質・能力を捉えてカリキュラム・デザインを作成することで、子どもと教師の願いが合致(擦り合わせ)し、目指す方向を共有することができている。</p><p>○今年度は、低学年やわかたけ学級においても、「なりたい自分たち」を設定する手法や過程が見えてきた。</p><p>○どの学年においても、「学校教育目標」と「学年目標(学年担任団が設定する)」が結び付いており、学校としての統一感や一体感がある。</p><p><b>Bについて(資質・能力を育成する支援方法については各学年の資質・能力段階表参照)</b></p><p>○カリキュラム・デザインを作成することで、育成したい資質・能力、重点教科や他教科との関連性が明確になっており、見通しをもって授業づくりや行事等の教育活動に取り組むことができている。また、学年でも共有しながら進めている。</p><p>○資質・能力を育成する支援方法や探究型学習の授業づくりにおいて効果的な支援方法が見えてきた。</p><p><b>Cについて</b></p><p>○授業を丁寧に見ていただき、指導主事の先生方の指導・助言や南小の先生方からのグループ協議と発表から、資質・能力育成や探究型の授業づくりの支援方法を学ぶことができた。</p></div>		

## 振り返りから見える課題

### Aについて

- 「なりたい自分たち」を設定するにあたり、子どもたちが前向きな気持ちになれるような手立てをとるようにしたい。また、学年担任団としての思いをもったうえで設定できるようにしていく。より学校教育目標とも関わらせられるとなおよいのではないか（教育活動において）。

### Bについて(特にPDCAサイクルと振り返りについての課題が多い)

- コロナ禍のため、異学年での学び合いや交流活動を設定することができず、カリキュラム・デザインに組み込むことができない。そのため、異学年での学びや交流によって高められるはずの資質・能力が効果的に育成できていない（これは教育課程とも関連）。
- 子どもたちと教師にとってのPDCAのあり方や捉え方（＝学校として共通理解）を検討する必要がある。また、「なりたい自分たちと行事や日々の学校生活における振り返り」「授業における振り返り」についても検討していく必要がある（学習指導要領を十分に踏まえて）。

### Cについて(支援方法の検討について)

- 資質・能力を育成する支援方法の検討→授業・教育活動を通して（R4研究紀要P43参照）。

南小学校の子どもたちのために必要と考える資質・能力を捉えて、学年の子どもたちを育てるカリキュラム・デザインを充実させていくことが求められる（資質・能力で教科等横断的に単元構想）。これまで以上に、子どもの実態や優れた問題解決者に育てるために必要な教育内容を、教科等横断的な視点をもとに構成し、南小探究型学習を基盤にした授業づくりを推進していきたい。

## 研究の方針および重点

### 研究の方針と重点

学校教育目標・学校経営の方針を意識し、教育課程全般を通じた研究を行うことを前提とする。そのために、今年度は、2つの研究の重点を設定する。

#### 1 学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実＝研究の重点1

- A 学年の子どもの思い（なりたい自分たちの姿）を掘り起こして実態を把握し、学年の子どもに必要な資質・能力を明確に捉える。
- B 各教科・道徳・総合的な学習の時間など、教科等横断的な支援方法を計画し、学年のカリキュラム・デザイン（学年経営案および教科等横断的な単元構想）を作成し、研究の内容（2）南小探究型学習を基盤に、PDCAサイクルや振り返りを大切にされた実践を行う。
- C 評価を校内研究全体会で共有し、来年度につなげる。

#### 2 「南小探究型学習」の日常化＝研究の重点2

⇒指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」 南小は、対話的＝協働的で統一（同じ意味）

- A 南小探究型学習（授業づくり）の日常化を図り、カリキュラム・デザイン実践の基盤にする。
- B 授業研究会や外部講師による助言をいただくことを通して、南小探究型学習の向上を図り、主体的・協働的に問題を解決するための資質・能力を育てるよりよい支援方法を検討していく。  
→事後研だよりで整理するだけでなく、リフレクションシートで授業実践や参観から学んだこと、これから実践したいことを端的に書き、支援方法を分類していくことで見える化する。

### 【南小探究型学習の過程において、以下のことを共有し大切に授業実践】

#### （1）主体的な学び

##### ①学習のめあて設定と解決の見通し

- ・児童の願いや思いを大切にされた主体的な学びを育むめあて設定を行うことができるようにする。
- ・児童が学習のめあてを自らの言葉や文字で表現できるようにする。
- ・めあて設定において、解決方法の見通しをもつことができるようにする。

##### ②自力解決

- ・対話的な学びに至る前に、自分の立ち位置を決めるために自己決定の場を設ける。

(2) 協働的な学び（対話的な学び）

①学級全体・グループ・ペアで協働的に学ぶ学習

- ・子ども同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手がかりに考える。
- ・自己の考えを広げ（友達の考えを受け止める）深める（自分の考えを再構築する）。

(3) 深い学び（主体的で協働的な学び 資質・能力に結び付く学びなど）

(4) まとめ（めあてについて）と振り返り

- ①各教科等の「見方・考え方」を働かせた深い学びについてのまとめや振り返り。
- ②児童が学習のまとめや振り返りを，自らの言葉や文字で表現。  
→振り返りについては，研究の内容4参照。

特別活動に関すること

【学校行事では，児童の主体的な取り組みと協働的な取り組みを全職員で大切にしていく】  
【児童会では，児童の願いや思いを大切に活動を行う】

- ①主体的な取り組みを大切に，児童への指示をできるだけさげ，児童が試行錯誤して，意思決定をすることができる発問を行い，学習や活動を任せる場面をつくる。
- ②協働的な取り組みを大切に，児童同士の関わりをつくる支援を全職員が行う。
- ③児童が繰り返し経験を重ねながら，自信を深めていく機会を設けることを大切にしていく。
- ④常時活動で責任感を育てるとともに，創造的活動にも主体的に取り組むことができるように支援する。「6年生を送る会」など，発表会よりも，児童同士の関わりがうまれる協働的な活動を行う。

研究の内容

研究の内容

1 学校教育目標・学校経営の方針を意識し，教育課程全般を通じた研究

学校教育目標

夢を持ち 共にまなび 未来をひらく 若竹っ子の育成  
わ 輪になって共に学ぶ子ども  
か 考えを進んで伝え合う子ども  
た 助け合い思いやりのある子ども  
け 健康でたくましい子ども

教育課程

各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，学級活動，児童会

学校経営の方針

「全ての子どもを優れた問題解決者に育てる」（問題解決力の育成）を根幹に，全教職員の共通理解と協働体制のもと，教育活動を展開する。

2 「南小探究型学習」の日常化＝研究の重点2

3 学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実＝研究の重点1

4 授業や特別活動など，教育課程全般で大切にしていきたい振り返り

- (1) 主体的な学習経験をもとに，見通しをもって粘り強く取り組んだ自分のよさを振り返る。
- (2) 協働的な学習経験をもとに，広げたり深めたりした自分の考えのよさや友達の考えのよさを振り返る。
- (3) 振り返りの仕方について検証して共有していく。

「振り返り」の目的

- ・問題解決力の育成を目指してメタ認知の力を子どもたちにつける。  
(子ども自身が，自分を俯瞰してとらえ，自分の行動や生活が「ひと」「もの」「こと」と関わっていることをもう一人の自分が冷静に認知することができる力を指す。)
- ・「振り返り」を大切にすることの意義  
自分のよさを認識し，自己肯定感をもつことができる。その過程で，友達を中心とした「ひと」との関わりがあってこそ，自分が伸びることができたという成長感を子ども自身で振り返ることができる。さらに，次の学習や活動への課題意識と意欲をもつことができる。

## 5 子ども主体の研究

- (1) 具体的な姿（固有名詞）を通して実践研究を積み上げていく。
- (2) 子どもの姿（固有名詞）をもとにした事後研究会とする。子どもの姿を見取り、資質・能力を育成するために有効な支援方法、学年の子どもの育てたい資質・能力や教科で付けたい力が身に付いているかを明らかにしていく。

## 6 職員の協働研究

- (1) 学年での事前研究・研究授業・事後研究を推進する。
- (2) 授業者とその学級の児童の姿から学ぶ意識をもつ。
- (3) 参観者は、学習活動案・研究授業・事後研究会で、授業者と児童の姿から成果を見出し、日頃の実践に生かすようにする。授業者は、授業後と事後研究会後で、省察した自分の成果や課題を児童の姿から見出し、日頃の実践で生かしたり解決したりする。
- (4) 運動会や児童会などの特別活動では、全職員で校内研究を意識しながら全校児童の支援にあたる。

## 研究の方法

### 研究の方法

- 1 授業研究会を全学年と特別支援学級（録画・映像視聴による授業可）で、7回の校内授業研究会を行う。研究の内容5を大切に事後研究会を行う
- 2 学級担任は、全員が学年のカリキュラム・デザインに関わる（中核・重点教科・関連教科）授業研究会を行う。同学年の学級は、指導案を作成（小研は指導案1枚目+本時+座席表だと資質・能力や具体的な姿がわかりやすい わかたけ学級は学級単独の指導案）し、同じ教科・同じ単元での授業を行い、協働的に授業づくりを行う。日程や授業の位置付けは、学年で検討する。
- 3 学年で事前研究会、授業の参観および事後研究会を行い、カリキュラム・デザインの実践を通して、資質・能力や教科で付けたい力が身に付いているかを、子どもの姿を通して検証する。授業の日程を教職員（教務・研究主任には早めに）に知らせ、参観できるようにしていく（可能な限り参加する）。
- 4 授業研究会では、グループごとに行い、以下の視点で協議する。

- (1) 主体的に問題を解決する子どもに向かうための支援方法と子どもの姿について〔青〕
- (2) 協働的(対話的)に問題を解決する子どもに向かうための支援方法と子どもの姿について〔赤〕
- (3) 学年で目指す主体的・協働的に問題を解決する子どもの姿（学習活動案1枚目の主体的・協働的に問題を解決する姿と育てたい資質・能力について）、教科等の見方・考え方や振り返りの見取り〔緑〕

- 5 研究推進委員が輪番で事後研だよりを作成する。また、研究紀要に掲載できるようにする。
- 6 カリキュラム・デザインに関わる授業の記録や写真および研究全体会の記録や写真（研究紀要に使えるように 研究推進委員を中心に）を各学年で残しておく。

## 研究の組織と全体計画

### 校内研究会の組織と全体計画

#### 1 研究推進委員について

1年	2年	3年	4年	5年	6年	わかたけ	担外
鈴木	沓澤	斎藤	菅野	土屋	三宅(主)	細矢(副)	鏡
記録 (写真・PC)	用具	用具	記録 (写真・PC)	用具	主任 ・会場設営 ・研究だより	副主任 ・会場設営	会場・日程 記録 (写真・PC)

- (1) 研究主任 三宅 慶知 ・副研究主任 細矢 浩大 ○会場準備（机と椅子の配置 表示）
- (2) 用具準備（マジック・画用紙・マグネット・付箋紙3色）
- (3) 記録（写真・全体会の記録【PC】 プロジェクター・スクリーン→必要な場合）
- (4) リフレクションシートのまとめと掲示（付箋紙の分類・見出し・掲示）
- (5) 事後研究会での司会、事後研だよりは、研究推進委員の輪番制とする。

## 2 全体計画（網掛けは授業研究会）

	日 程	内容（研究授業学級・授業者）	講 師
推進委員会①	4月17日（月）	4月24日（月）第1回全体会に向けて 授業研究会の希望日について（後日調整）	
第 1 回	4月24日（月）	主題・計画の提案（R5年度の校内研究について）	
推進委員会②	5月 8日（月）	5月17日（水）カリキュラム・デザイン作成に 向けて	
第 2 回	5月17日（水）	各学年のカリキュラム・デザイン① （学年経営案・児童の実態把握・教科等横断的な 単元構想）	
第 3 回	5月22日（月）	各学年のカリキュラム・デザイン② （学年経営案・児童の実態把握・教科等横断的な 単元構想）	
第 4 回	7月 5日（水）	授業研究会（第1回）	
第 5 回	7月14日（金）	授業研究会（第2回）	
推進委員会③	7月24日（月）	7月28日（金）研究全体会に向けて（夏休み）	
第 6 回	7月28日（金）	研究全体会（講習会・研修会）	
第 7 回	10月25日（水）	授業研究会（第3回）	
第 8 回	11月 1日（水）	授業研究会（第4回）	
第 9 回	11月13日（月）	授業研究会（第5回）	
第10回	12月 6日（水）	授業研究会（第6回）	
第11回	12月15日（金）	授業研究会（第7回）	
推進委員会	12月20日（金）	12月25日（月）研究全体会に向けて	
第12回	12月25日（月）	成果と課題 研究紀要について提案	
推進委員会⑤	2月 5日（月）	研究紀要の綴じ込みと2月19日（月）全体会 に向けて次年度の方向性の確認	
第13回	2月19日（月）	全体の成果と課題と来年の方向性の検討	

学校教育目標「夢を持ち 共にまなび未来を開く 若竹っ子の育成」

経営方針「全ての子どもを優れた問題解決者に育てる」

研究主題「主体的・協働的に問題を解決する子どもの育成」

「知識及び技能」「思考力,判断力,表現力」「学びに向かう力,人間性等」  
学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインと南小探究型学習

主体的・協働的に問題を解決していく子どもを育てる  
ためには、どんなカリキュラム・デザインに？  
主体的で協働的（対話的）で深い学びとは？

「探究型学習」  
「主体的・協働的（対話的）で 深い学び」の実  
現に向けた授業改善の  
推進＝研究の日常化

研究の日常化  
研究授業  
7回  
全員授業

全体会  
児童の実態  
成果の共有  
課題の改善  
研修

各教科  
道徳  
総合的な学習の時間  
特別活動  
（運動会・児童会など）  
給食活動・清掃活動



教育課程全般



「学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実＝研究の重点1」

- A 学年の子どもの思い（なりたい自分たちの姿）を掘り起こして実態を把握し、学年の子どもに必要な資質・能力を明確に捉える。
- B 各教科・道徳・総合的な学習の時間など、教科等横断的な支援方法を計画し、学年のカリキュラム・デザイン（学年経営案および教科等横断的な単元構想）を作成し、研究の内容（2）南小探究型学習を基盤に、PDCA サイクルや振り返りを大切に実践を行う。
- C 評価を校内研究全体会で共有し、来年度につなげる。

「南小探究型学習」の日常化＝研究の重点2

- A 南小探究型学習（授業づくり）の日常化を図り、カリキュラム・デザイン実践の基盤にする。
- B 授業研究会や外部講師による助言をいただくことを通して、南小探究型学習の向上を図り、主体的・協働的に問題を解決するための資質・能力を育てるよりよい支援方法を検討していく。  
→事後研だよりで整理するだけでなく、リフレクションシートで授業実践や参観から学んだこと、これから実践したいことを端的に書き、支援方法を分類していくことで見える化する。

子どもの「資質・能力を捉える」ことができる教師  
子どもの主体的・協働的な学びを「支援」できる教師

# 優れた問題解決者を育てるために必要な資質・能力について

『優れた問題解決者を育てるために必要な資質・能力』一覧表

資質・能力—南小—

研究主題との関わり 資質・能力	主体的に問題を解決する子ども	協働的に問題を解決する子ども
<p>生きて働く 【知識及び技能】</p>	<p>① 知識や概念を見出す（発見する）楽しさや喜びを理解している。 ② 知識や概念・技能を活用する楽しさや喜びを理解している。 ③ 自分の考えを伝える楽しさや喜びを理解している。 ④ 他者の考えを聞くことで、自分の見方・考え方を広げたり、深めたりする楽しさや喜びを理解している。 ⑤ 図書館の資料やインターネットなどで情報を集めることができる。</p>	<p>① 互いの見方や考え方を話し合うことで、国際理解・情報・環境・福祉・健康・科学技術・町作り・キャリア・生命などの知識や概念の大切さを理解している。 ② 考えたことや伝えたいことを、相手意識をもって丁寧に話すことができる。 ③ 話し手の目的や意図をつかみながら受容的に聞くことができる。 ④ 自分の考えと話し手の共通点と相違点を見つけることができる。 ⑤ 問題に向き合っている他者（専門家や地域の方など）から情報を集めることができる。</p>
<p>未知の状況に 対応できる 【思考力,判断力,表現力等】</p>	<p>⑥ 事象に対して、疑問・気づきをもつことができる。 ⑦ 疑問から解決すべき問題を見出すことができる。 ⑧ 問題を自分ごととして捉え、自己課題をもつことができる。 ⑨ 問題解決のための見通しをもつことができる。 ⑩ 根拠をもとに、自分の考えや意見をもつことができる。 ⑪ 自分の考えや意見を整理して言葉に表すことができる。 ⑫ 比較・分類したり、傾向の読み取りをしたりしながら価値ある情報を取捨選択することができる。 ⑬ 選択した情報を関連づけて、自分の考えを創り上げ、問題を解決することができる。</p>	<p>⑥ 他者との交流や振り返りを通して課題を更新することができる。 ⑦ 自分の考えと他者の考えを比べることができる。 ⑧ 根拠をもとに相手に自分の考えや意見を伝えることができる。 ⑨ 言葉・劇・動作化・演説など工夫して目的や意図を他者に伝えることができる。 ⑩ 自分の考えと他者の考えを関連づけて、自分の考えを更新したり、明確にしたりすることができる。 ⑪ 他者と協力し合い、問題を解決することができる。</p>
<p>学びを人生や社会に 生かそうとする 【主体的に学習 に取り組む態度】 【学びに向かう力,人間性等】</p>	<p>⑭ 自らの思いや願いを叶えようとする。 ⑮ 自分のよさを見つけようとする。 ⑯ 学習や生活を振り返ることで自分の成長を捉えようとする（メタ認知）。 ⑰ 意欲や自信をもって学ぼうとする。 ⑱ 思いや願いの実現に向けて豊かな生活を創ろうとする態度をもつ。</p>	<p>⑫ 他者の思いや願いを受け入れようとする。 ⑬ 他者のよさを認めようとする。 ⑭ 他者と交流し、異なる意見を生かして、自分の見方・考え方を更新したり、明確にしたりすることができる。 ⑮ 他者と協力しながらよりよい（集団）生活を創ろうとする態度をもつ。</p>